



Title	義歯へのカンジダ付着に関するリスク因子の検討 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	尾崎, 公哉
Citation	北海道大学. 博士(歯学) 甲第13861号
Issue Date	2020-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/78502
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Kimiya_Ozaki_abstract.pdf (論文内容の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称 博士（歯学） 氏名 尾崎 公哉

学位論文題名
義歯へのカンジダ付着に関するリスク因子の検討

キーワード（5つ） 義歯 ， カンジダ ， 清掃管理 ， 高齢者 ， 義歯性口内炎

義歯は口腔カンジダ症の重要なリスク因子の一つであり、口腔カンジダのリザーバーとなっている。義歯へのカンジダ付着の関連因子が把握できれば、高齢者の義歯管理に役立ち義歯性口内炎の予防を通して誤嚥性肺炎の予防にも寄与すると思われる。そこで第1章ではカンジダが新義歯に付着するまでの期間とその関連因子を検討した（北大病院自主臨床研究 014-0054）。対象は当科で口蓋全体を被覆する新製上顎義歯を装着後に、12か月に亘って定期的に経過観察が可能であった32例（男性11例、女性21例、平均年齢69歳）を対象とし、方法は新義歯装着時およびその後1・3・6・9・12か月に①義歯粘膜面、②義歯床下粘膜、③口内リンス液の3箇所から検体を採取し、クロモアガー培地で培養後、菌種とコロニー数（CFU/ml）を測定し、関連因を統計学的に解析した。関連因子は年齢、性別、既往疾患数、常用薬剤数、安静時唾液分泌量、柿木分類、義歯の既往、下顎義歯の有無、義歯清掃状況、義歯装着時のカンジダ保菌の有無、口腔内一般細菌数とした。

結果は上顎義歯を新製・装着した32例中、19例（59.4%）が、新義歯装着後1～9か月の間に義歯粘膜面からカンジダが検出されたが、このうち15例は新義歯装着後1か月であった。1年間に亘ってカンジダが義歯粘膜面から1度も検出されなかったのは、13例（40.6%）であった。これを検体別にみると新製義歯装着時、口蓋粘膜と口内リンス液の両方からカンジダが検出された14例中11例が、義歯粘膜面からカンジダが検出され、その全てが義歯装着1か月後であった。逆に新義歯装着時に両方からカンジダが検出されなかった8例中カンジダが検出されたのは1例のみで、他は1年間に亘り義歯粘膜面からカンジダは検出されなかった。以上より、新義歯装着時、既に口蓋粘膜および口内リンス液の両方からカンジダが検出された群は、両方から検出されなかった群に比べ義歯粘膜面からのカンジダ検出率が有意に多い結果が認められた。また、義歯へのカンジダ付着が安定しなかった8例を除き、カンジダ付着群11例と非付着群13例で関連因子を比較検討したところ、柿木分

類による口腔乾燥、義歯清掃状態、新義歯装着時の口蓋粘膜または口内リンス液からのカンジダ検出の4項目で有意差を認めた。

第2章では新義歯装着以後、介入効果の期待できる、徹底した義歯の清掃管理（就寝前の機械的清掃＋義歯洗浄剤）を義務付けた。対象は当科で口蓋全体を被覆する新製上顎義歯を装着後に、6か月に亘って定期的に経過観察が可能であった22例（男性8例、女性14例、平均年齢72歳）。第1章と同様の方法及び関連因子を検討し、経過観察期間は1・3・6か月とした。（北大病院自主臨床研究 018-0277）

結果は関連因子に関しては第1章と第2章ですべての項目で有意差を認めなかった。カンジダが新義歯装着6か月間に、義歯粘膜面からカンジダが検出されたのは22例中4例、18.2%であった。6か月間のカンジダ検出率を第1章の研究の56.2%（18/32）と比較すると、有意な差を認めた。検体別では、新義歯装着時に、口蓋粘膜および口内リンス液の両方からカンジダが検出されたのは6例でそのうち、その後6か月間に義歯粘膜面からカンジダが検出されたのは、わずか1例（16.7）%であった。逆に両方の検体からカンジダが検出されなかったのは7例で、そのすべてが6か月間にカンジダは検出されなかった。

新製上顎義歯装着に際し、義歯の清掃管理の介入を行うことで、義歯のカンジダ付着を明らかに抑制することが検証できた。高齢者における新製上顎義歯装着時、並びにその後の定期観察時において、適切な清掃管理指導をおこなうことが義歯性口内炎予防に極めて有効であると思われた。